

様式

令和6年度ひろしま自然保育推進事業 活動報告書

令和7年4月30日

団体所在地 東広島市鏡山北333-2

団体の名称 広島大学附属幼稚園（東広島園舎）

職・氏名 園長 ・ 七木田 敦

1 活動報告

【4月～6月】(春季)

- ・ 森の日
- ・ 春の自然を楽しむ
- ・ 虫とのふれあい
- ・ 田植え

【7月～9月】(夏季)

- ・ 森の日
- ・ 虫の飼育
- ・ 夏の自然を楽しむ

【10月～12月】(秋季)

- ・ 森の日
- ・ 秋の自然を楽しむ
- ・ 稲刈り
- ・ 森の木を伐りだす

【1月～3月】(冬季)

- ・ 森の日
- ・ 冬の自然を楽しむ
- ・ 山越え探検
- ・ 森の木で遊具づくり

活動報告（詳細）

【4月～6月】



ダンゴムシを見つけた子どもがクラスでダンゴムシを紹介したことをきっかけに、ダンゴムシに興味をもつ子どもが増えていった。併せて、担任がダンゴムシの生態、飼育方法が書いてある図鑑や絵本などを絵本棚に用意したり、読み聞かせを行ったりした。

子どもたちは、友達に教えてもらった場所を探したり、図鑑にのっていた木の下や石の下などをよく探したりする姿が見られるようになった。たくさん見つかるようになってくると、「これは背中に飾りがあるから雌」などと雄雌を判別したり、生まれたばかりのダンゴムシは白いことを確かめたり、半分だけ色が違う脱皮をしているダンゴムシを見つけたりする姿がみられるようになった。

【7月～9月】



バツタを 10 匹ほど虫かごに入れて観察を楽しんでいる。金曜日の午後、担任が「バツタどうする？明日から2回休みだから、このまま置いておくと死んでしまうかも」と声を掛けた。するとA児は「うーん。じゃあ外に逃がしてこようかな」と言うが、B児が少し焦った様子で「いや、大丈夫なんよ。草もあげとるし」と言う。担任が「だけど、部屋の中暑いし水もないよ」と言う。するとB児は「大丈夫なんよ。装置を作ったけんね」と言い、装置を指さす。「虫かごの水がなくなったら、ここ（アルミホイール）に入ると水が入ってこうやって（ストローの中をつたって）下に行くんよ」と装置を触りながら説明する。担任はどちらの思いも聞きながら、命について考える機会になっていった。

【10月～12月】



10月に広島大学の生体実験園に稲刈りにいった。生長した稲の長さをメジャーで計ると、年長の背の高い子どもの高さと同じくらいだと発見した。古代米を一粒ずつもらってモミをとり「おいしい」「ちょっと苦い」「ナツツみたい」などと言いながら食べていた。田んぼは降り続いた雨でぬかるんでいて、長靴がはまって大変な場所もあった。それでも繰り返し行う中で鎌の扱いにも慣れて、楽しむことができた。刈った稲を離れた場所まで何往復もして運んだ。弁当のときに「今日もお弁当はいつもよりおいしい！」と言いながら食べる姿も見られた。

子ども自身が気づいたり、体験できたりするように環境を整えたり言葉をかけたりした。田植えのときの稲の大きさとの差に気づいたり土の感触を体ごと体験したりできた稲刈りになった。

【1月～3月】



3年間自然の中で育った年長児は森での遊びで体の使い方がとても上手になっている。

冬のある日、「先生、サーカス始まるけえ、見よってね！」とC児が担任に声を掛ける。担任が他の子どもたちと観客席につくと木と木に渡してある板に登って準備万全なC児たちは順番に技を披露し始める。ロープ技が終わると「Dちゃん、あれやって！」とC児がD児に声を掛ける。「Dちゃんはこのロープで逆上がりの連続もします！」とC児が話す中、D児は、もう一度板に登り、ロープの真ん中まで進み逆上がりを始める。1回まわりそのまま2回目をまわろうとするがなかなかできない。すると、サーカスのメンバーと観客から「がんばれ！」「もう少し！」と応援の声が上がる。友達とのつながりもしっかりできた年長児。「もっともっと練習したら、お母さんたちにも見せたい！」と意欲満々の子どもたちだった。

2 その他（自然体験活動の実施における今年度のプロセス）※記入必須

- ・ 職員の資質向上について
森のインタープリターと過ごす森の日（延べ回数 22 回）
- ・ 地域との関わりについて
広島大学の生体実験園へ見学，田植え，稲刈り体験
- ・ 保護者との関わりについて
家族で遊ぼう（6 月）
- ・ その他

*より詳しく活動をアピールしたい施設は、ホームページや SNS の URL をご記入ください。

U R L	https://yochien.hiroshima-u.ac.jp/
-------	---